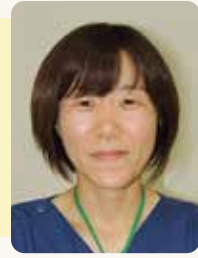


# 健康 コラム

## 抗がん剤治療のお話



秋田厚生医療センター

ふなき やよい

がん化学療法看護認定看護師 船木 弥生

### 「薬物療法(抗がん剤治療)」

抗がん剤には全身の細胞に作用する従来からの抗がん剤、細胞の遺伝子を標的とする分子標的薬と最近話題の免疫治療薬などがあります。一種類から何種類か薬剤を組み合わせた治療スケジュールがあります。治療方法は、点滴や内服薬、またはこの2つを組み合わせた方法があります。初回の治療から外来で行うことが多くなり、定期的に病院に通いながら、家庭での役割、地域での活動など日常生活を続けていくことが可能となりました。

### なぜ副作用がでるのか？

一般に使用されている薬は定期的に使用することで徐々に薬の効果がでて安定していきます。抗がん剤は基準となる投与量が決まっており、患者さんの体表面積や体重、年齢などに合わせてきちんと計算した量で投与されます。がんに対する効果と患者さんに副作用が出る幅が一般に使用される薬と比べると近いので、がんに対する効果を考えると、多少の副作用がで

ることを予想して投与されることとなります。

### 副作用をコントロールする

副作用には、薬の特徴から出る症状や症状が現れる時期、回復する時期とある程度パターンがあります。どんな副作用があるのかあらかじめ知り、副作用に対する心構えを持つことが大切になります。治療を受けた後は、何日目になんか症状が出たのか、何日間続いたのか、一日何回だったかなど日々の経過を覚えておくことも参考にになります。何回か経験していくと自分のパターンが分かってくるので、体調のいいときや治療がお休みの期間に副作用に対する作戦を考えることができます。これまでの生活や趣味、仕事など今までしてきたことと合わせて治療を続けていくコツがつかめてくると思います。

外来で行う抗がん剤治療は、副作用を自宅で体験するため、医療者のいないところで患者さんご自身や家族の方が対処していくことが必要です。薬の開発やがんの研究が進んできたことで、副作用に対す

る治療方法や予防・対処方法が増えました。あらかじめ出ると予想される場合には予防的に薬を使用し、徐々に出てきた場合には、患者さんの症状に合わせて薬を使用したり、軽減させるための対処方法をお伝えしたりしています。我慢しすぎないことや辛いときだけ薬に頼ることも楽に過ごす工夫の一つとなります。患者さんとご家族を中心として、さまざまな職種をサポートをする体制もあります。

### さぐり

患者さんが病院に来る日は限られています。治療を受けている患者さんとお話ししたり、楽に過ごせる方法を一緒に考えたりと少しでも安心して帰り生活していけるよう、治療を通して日々関わらせていただいています。治療中の経過で順調なとき、体も心も弱ってしまうとき、対処方法が分からなくなるときがあると思います。決して一人ではなく、必要な時にいつでも相談する方法があることを覚えていただければ幸いです。少しでも皆さんのお力になれるよう努めて参りたいと思います。